

平成 30 年度 国立大学法人岩手大学 入学式 告辞

Good morning, everyone.

My name is Akira Iwabuchi, president of Iwate University. On behalf of the university staff, I would like to congratulate you on passing the Iwate University examination, and welcome to our university.

It is our great pleasure to have the spring enrolment ceremony of 1,436 students in the undergraduate and graduate schools. Thank you for choosing Iwate university from a lot of universities. I am sure that you will be satisfied with the experience you will get during your tenure in our university.

First of all, I would like to explain why I start to talk the opening remarks in English. It is that we are now making a glocal university. You already know the word *Glocal*, which is combination of Global and Local. We give you specific knowledge in your department and many various experiences, where you will find the local problems by visiting the areas in Iwate Prefecture, and you will also understand the global problems by communicating with people from abroad. Then, we expect you to become glocal persons who can seek out the solutions of the local problems by considering from both global and local viewpoints. I think that English is the global language for communication even if you visit China. I hope you will learn English well during your study period in the university, and will become a true Glocal person.

Thank you.

それでは通常の挨拶に戻ります。

桜前線の北上が進み、この盛岡でも間もなく桜の季節を迎えます。本日、ご来賓の皆様、保護者ご家族の皆様をお迎えし、平成三十年代岩手大学入学式を、大学院と学部の合同で挙行できますことは、本学にとりまして大きな喜びであります。

外国人留学生四十二名、社会人入学生二十七名を含む、千百四名の学部学生、三百三十二名の修士・博士の大学院生、合わせて千四百三十六名の皆さん、入学おめでとうございます。教職員・在校生一同で皆さんを歓迎します。これまでの皆さんの努力に敬意を表します。また、この日を心待ちにして来られた保護者、御家族の皆様にもお祝いを申し上げます。

教育、研究、社会貢献をミッションとする八十六校ある国立大学の中で、岩手大学の特徴は何か。それはやはり東日本大震災の被災を受けた岩手県の中核大学としての復興活動を

教育研究に生かしていることです。東日本大震災から七年がたちましたが、皆さんにはこの復興プロセスを学んで、是非今後の人生に生かして頂きたいと思います。

さて、皆さんは様々な夢、目標をもって入学されたことでしょうか。先日閉会した平昌オリンピックやパラリンピックは多くの感動を私たちに与えてくれました。メダリストの多くは「夢に向かって努力した結果」だと述べていました。これから始まる学生生活において、夢を追い続けることは重要なことです。これに加えて、私は、大学で学ぶ期間は、教員、研究者や技術者、あるいは公務員や企業人など、皆さんが卒業後または修了後に選択される道において、その道のプロフェッショナルになるための基礎体力をつける期間として、非常に重要な期間であると考えています。

ところで、AIの発達により、今後、現在の五十～六十%の仕事や職業がなくなるともいわれています。そうだとすれば、皆さんが目標として選んだ仕事や職業が、卒業または修了の十年後、あるいは二十年後も存在し続けるという保証はありません。将来を見据えた準備が必要です。職種に関係なく、社会の変化に柔軟に対応して、AIがとって代わることのできない存在になることが必要です。そのためには、クリエイティブな能力が最重要と考えています。これまでの受験戦争で求められたのはどちらかと言えば「情報処理能力」ですが、クリエイティブな能力に磨きをかけるのはこれからです。その基本は「好奇心を抱き、常に科学するところ」を持つことです。簡単なことですが、様々な事象、工学でも農学でも政治でも、あるいは芸術でも、最初に「何故」と問う姿勢です。そして、そこから解を捜していくのです。自分ならこうするという解は、決して万人に共通的なものではありません。まさに現在の社会が学生に期待する「問題解決能力」です。

問題を与えられたとき、AIは過去のデータ、big Dataから確率的に高いものを解として提示するでしょう。このこともクリエイティブと呼ぶかもしれませんが、これはプログラムに沿った情報処理能力でしかありません。ではクリエイティブな能力とはどう捉えるのでしょうか。それは、課題を違った角度で眺めることだと私は考えます。修士の皆さん、博士の皆さんは論文テーマを先ず決めることですが、そのテーマの持つ社会的意義を考え、独自のアプローチ、展開が求められます。その時、従来の発想と違う独自のアプローチを提案することがクリエイティブ能力を磨く最初の第一歩です。

東日本大震災からの復興は、被災者の方々ご自身による精力的な努力も去ることながら、震災を機に初めて被災地域に赴き、縁を持った、被災地域以外の方々による尽力も大きかった、と言われています。この意味するところは、これまでの地域社会の旧来のシステムにとられることなく、地域にとって新たな発想を持って行動した人たちによるクリエイティブな活動が、震災復興を大きく加速させた、ということです。「井の中の蛙大海を知らず」

ではなく、外の世界を知っている、まさにグローバルな人材といえるでしょう。そしてクリエイティブな活動こそがイノベーションをもたらすのです。

ここで今日ご参列の保護者の皆様にお願ひがあります。彼らは様々な局面で、自分で判断しなければいけない大人です。私たちは大人として接したいと思ひますので、ご理解とご支援をお願ひします。

最後になりますが、皆さん、夢に向かつて、好奇心を抱き、常に科学するところを持って、充実した学生生活を送ってください。皆さんがそれぞれに生き生き躍動する学生生活を送ることを期待して、学長告辞といたします。

平成三十年四月六日

国立大学法人 岩手大学長 岩瀬 明